

つなびのど

# 燃やしています

# こんなに

ごみを知ろう委員会方式

## 焼却ごみの含水データ

元データ：環境省廃棄物処理技術情報

[http://www.env.go.jp/recycle/waste\\_tech](http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech)

埼玉ではごみの80%以上が燃やされています。しかし、どんな物が燃やされているのでしょうか？

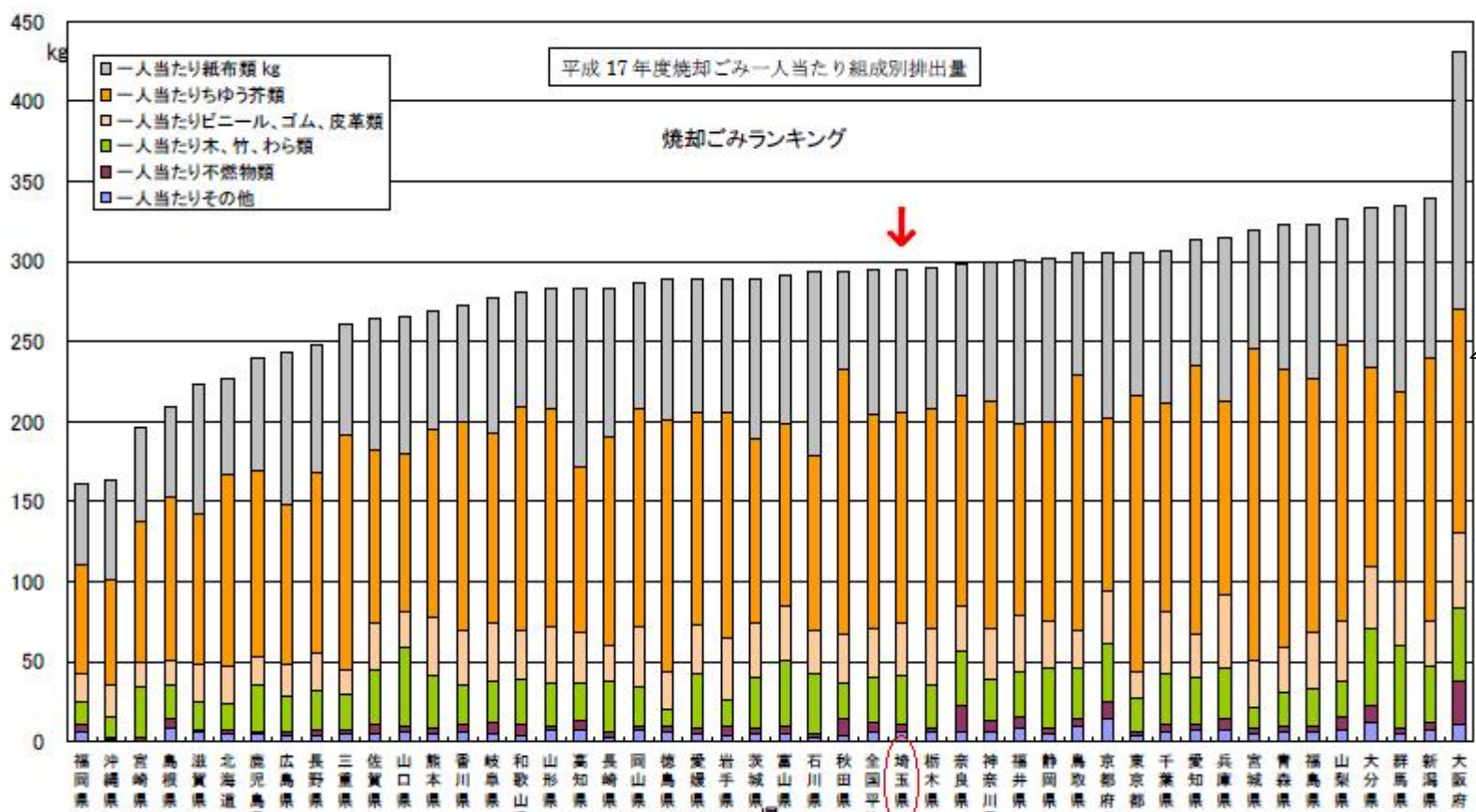
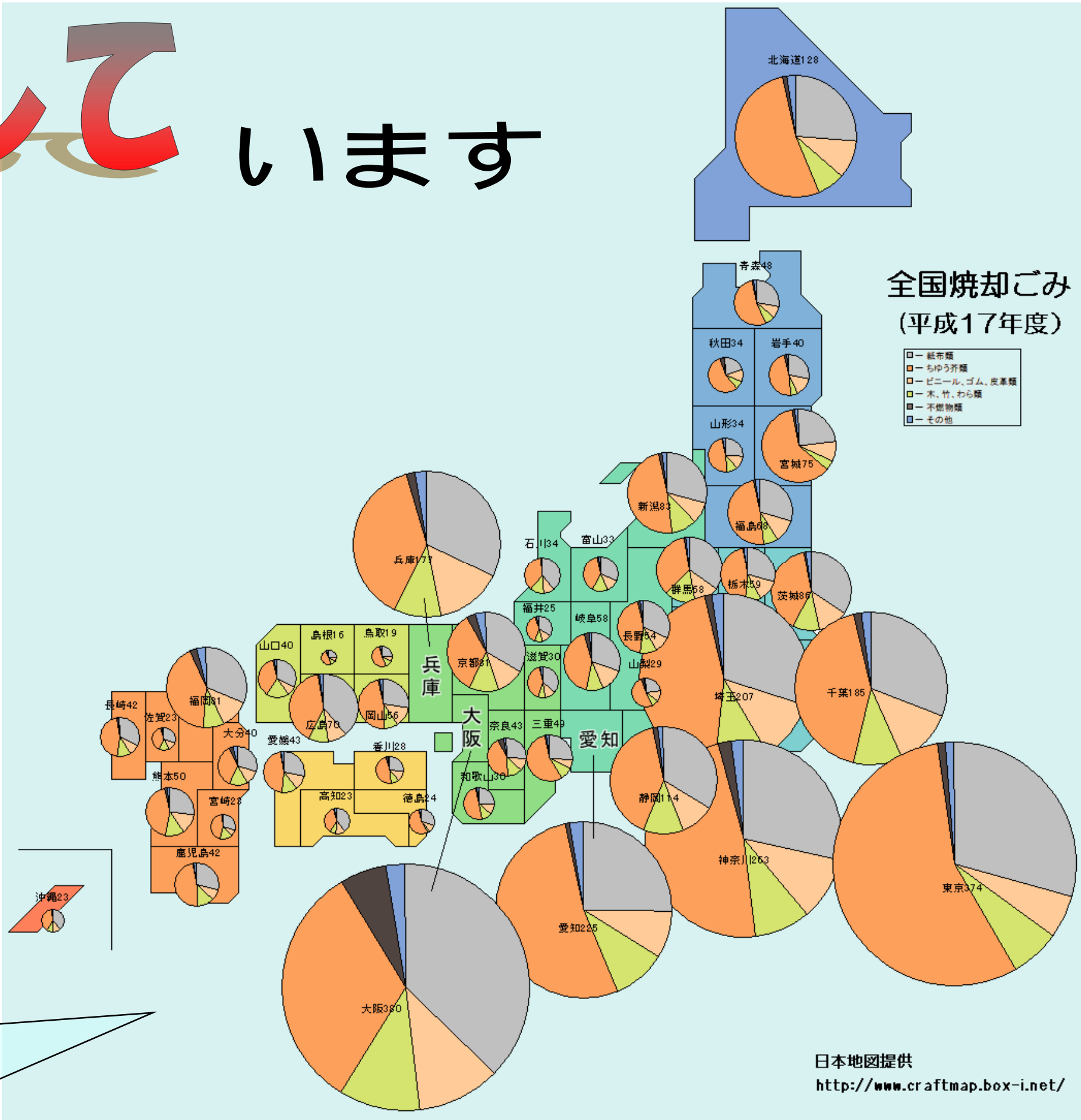
焼却ごみの内容は乾燥させて測定されています。これでは本当のごみの姿は分かりません。そこで『ごみを知ろう委員会』では以下の含水係数\*を使い焼却ごみの含水データを出しました。

紙・布類	0.1	ビニール・ゴム・皮革類	0
木・竹・わら類	1	ちゅう芥類	5
不燃物	0	その他	0

(\*含水係数とは乾燥成分1に対する水の割合の事としました。木材の含水比に準じます。)

全国 1087ヶ所の焼却場データ(平成17年度環境省)を、『ごみを知ろう委員会』で推定した含水係数\*で再計算し、都道府県ごとに集計しました。(単位 万トン)

乾燥データと違い私たちがごみとして出した状態に近いと思います。



平成17年度の一年間に焼却した各都道府県の一人当たりのごみの量をランキングしました。埼玉県はほぼ平均値。一人当たり約300kg弱燃やしています。(単位 kg)

多いのはオレンジ色のちゅう芥ごみ。水分をたっぷり含んでいます。

さて皆さんのご家庭では如何でしょうか？

## ごみを知ろう委員会の焼却ごみデータに関する考え方

### 焼却場のデータは

左の図のように、ごみの三成分(水分、固形分、灰分)と乾燥データ(紙・布類、ビニール・ゴム・皮革類、木・竹・わら類、ちゅう芥類、不燃物類、その他)の2通りで計測され毎年公表されています。

しかし、実際は乾燥データのみで理解されており、特に厨芥ごみ(いわゆる生ごみ)の場合、水分が多いため私達が出している現状とはかけ離れた数字でごみの量が考えられています。そこで『ごみを知ろう委員会』では、水分を含んだ焼却ごみの量を推計するため次のような解析方法で計算をし含水データを出しました。

#### 解析方法

- 1) 平成5年度から17年度までの埼玉県の焼却場データを元にごみ組成ごとの含水係数を考察し推定しました。( \*含水係数とは乾燥成分1に対する水の割合の事としました)
- 2) 各焼却場のデータと1)の含水係数からごみの組成ごとの水量を計算しました。
- 3) 焼却場ごとに各々のデータに合わせて水量の微調整をしました。
- 4) 計算した水量と乾燥分を合計し、湿った状態のごみの値を推計しました。(含水データ)

### ごみの組成とデータの関係

